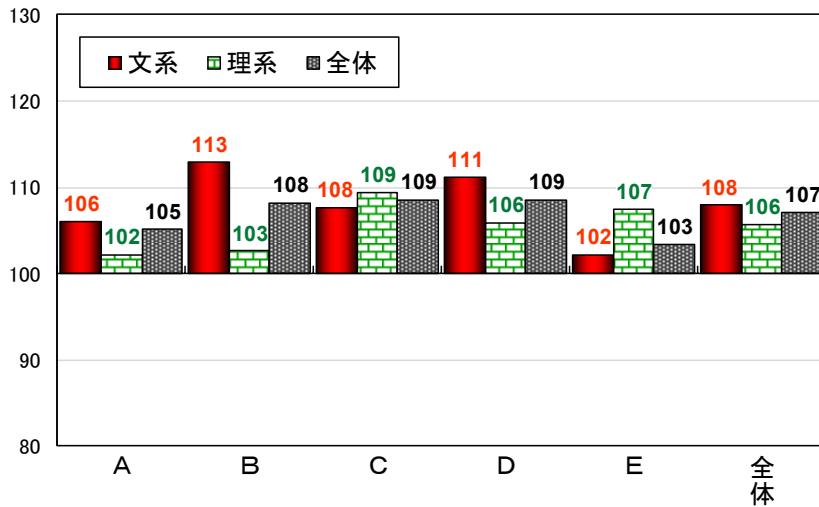


2020年度入試状況分析【私立大】

◎模試合格判定ライングループ別合格状況

□合格者数は文理とも全グループで増加



＜集計について＞

※一般方式とセンター利用方式に分けて、各大学の学部単位で最もB判定ラインの高い募集単位を代表値として集計。
※医学科は分けて集計。

＜第3回駿台・ベネッセマーク模試のB判定ライン＞

Aグループ=65以上
Bグループ=60~64
Cグループ=55~59
Dグループ=50~54
Eグループ=49以下

※前年度を100とする指数

上のグラフは、私立大510大学の一般選抜入試の合格者数集計において、第3回駿台・ベネッセマーク模試の合格判定ライン(B判定ライン)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で5つのグループ(上位Aグループ～下位Eグループ)に分類し、各グループの合格者数合計の前年度対比指数を示したものです。

文理別では、文系(108)、理系(106)のいずれも増加しました。文系は5グループ全てで増加しましたが、A～Dの4グループはいずれも志願者数が減少したため、競争が緩和したことがわかります。また、Eグループ(102)は志願者数が約23%もの大幅増加だったため、文系の中では特に競争が厳しくなりました。Eグループは、AO・推薦入試といった特別選抜入試ですでに相当数の入学者を確保済みの大学が多く、一般選抜入試での合格者数を多くできないことが影響しました。

理系は、志願者数増加率よりも3ポイント大きく、文系同様に全体では競争は緩和したといえます。グループ別に志願者数と合格者数の増減率を比べると、Aグループ(102)、Bグループ(103)、Cグループ(109)では競争が緩和したことがわかります。一方で、Dグループ(106)、Eグループ(107)はいずれも競争が厳しくなりましたが、特にEグループは志願者数が約32%もの大幅増加のため、激戦だったことがわかります。